Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOUJI
Chartered October 30. 1994

〒 192-0911
東京都 八王子市打越町 334-2-5-201
花輪　宗命　TEL：090-2213-0257
Fax:042-636-6157
E-mail: hanamate@rk9.so-net.ne.jp

2023年5月　The Service Club of The YMCA　第335号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会　長	花輪　宗命
副会長	茂木　稔
書　記	久保田　貞視
会　計	長谷川　あや子
直前会長	山本　英次
担当主事	菅野　牧夫
ブリテン	山本　英次　茂木　稔 大久保　重子

国際会長 ウルリック・ラウリドセン（デンマーク）
主題　「輝かそう、あなたの光を」
スローガン　「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」
アジア太平洋地域会長　Chen Ming Chen　主題:「新しい時代とともに　エレガントに変化を」　スローガン「今すぐ実行を」
東日本区理事　佐藤　重良（甲府 21）　主題：「未来へ向けて今すぐ行動しよう」
スローガン「誰かのために奉仕して　自分のための楽しいクラブライフを！」
あずさ部部長　後藤　明久（富士五湖）　主題「ワイズへの参加と交流を楽しもう」
八王子ワイズ会長　花輪　宗命　主題「**感謝と報恩奉仕**」

5 月例会プログラム
中央大学ひつじぐも新入生歓迎

(担当:C 班:大久保、茂木、山本、並木信)
日時:5 月 27 日(土)午前 9:45～午後 14:00(解散)
会場:高尾の森わくわくビレッジ
　所在地　八王子市川町 55　TEL 042-652-0911
会費:メン　1000 円　メネット・ゲスト・ビジター　2000 円
　中央大学ひつじぐも　500 円
受付:大久保メン、山本メン
進行:並木信メン

プログラム

10:00～10:30　開会挨拶　花輪会長
　オリエンテーション
　会場紹介　プログラム説明　参加者紹介等
10:30～11:30　わくわくビレッジ草刈作業
　(雨天の時　室内で懇親会)
11:30～13:00　昼食(バーベキュー)
13:00～14:00　クラブ事務会
14:00　解散

巻　頭　言

あずさ部第 3 回「残雪のアルプス評議会」

長谷川あや子

5 月 13 日(土)あずさ部第 3 回評議会が松本で行われました。お天気がよければ雪を被った北アルプスを望めたのでしょうが生憎の曇天でした。2022-23 年度最後の評議会は今年度の締めくくりであり次年度への橋渡しともなるので、スムーズに進行するかどうか、次年度部書記としては大変緊張する評議会でした。11 時半に松本駅到着、まずは駅前のお蕎麦屋さんで昼食タイム。舞茸

先月の例会ポイント　(4 月)

在籍	12 名	切手	0g
		22～23 年度	計 1698g
メン	11 名	現金	0 円
メイキャップ	1 名	累計	0 円
出席率	100%	スマイル	12, 000 円
メネット	1 名	累計	106、650 円
ゲスト	2 名	オークション	0 円
ビジター	0 名	累計	0 円
ひつじぐも	2 名		

今月の聖句(2023 年 5 月)

イエスが町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、担ぎ出されるところであった。母親はやもめであって、町の人が大勢そばに付き添っていた。主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われた。そして、近寄って棺に触れられると、担いでいた人たちは立ち止った。イエスは「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。すると、その死人は起き上がってものを言い始めた。イエスは息子を母親にお渡しになった。

(新約聖書ルカによる福音書 7:12～

天ぷらとお蕎麦が美味しかったです。その後駅から歩いて10分の松本駅前会館へ。松本で評議会が行われるのは 6 年ぶりのことで何とも懐かしい感じがしました。大和田会長より歓迎のご挨拶を受けて後、評議会が始まりました。

◇議案審議

2023-2024 年度あずさ部部長活動方針 2023-2024 年度あずさ部部大会・評議会が承認され、あずさ部次期予算案も承認されました。あずさ部 CS・Y サ助成金関係の現行規定の廃止と新規程の制定はCS・Yサ事業主査より丁寧な説明を聞き承認されました。これは次年度からの部則に反映されます。第 5 号議案では 2025-2026 年度あずさ部部長辞退の件が東京西クラブより提案されましたが、2022-23 年度第 3 回評議会時点では、次期の次々期部長の件になってしまい、部則に則ることが出来ませんので、次年度の継続審議となりました。

◇部長活動報告、事業主査、クラブ会長、部エクステンション委員会報告が続き、評議会は時間内に無事終了しました。松本クラブが準備して下さった懇親会《アルプスの集い》は素晴らしいものでした。きっとクラブ全員でおもてなしを考えて下さったのでしょう。次期会長の古畑雄一郎さんを中心としたアカペラバンド「ハモラボ」の素晴らしいハーモニーは会場の皆さんの心をわしづかみにしました。懐メロから最新曲まで幅広くキレのあるハーモニーでした。そして〈記念卓話〉は 1992 年に諏訪市の日本語学校にモンゴルより留学、その後丸の内ビジネス専門学校を卒業後同校に勤務のサラントヤ先生の貴重な体験を伺いました。同校で勉強中の 3 人の若い方のお話もイキイキとしていました。どうかこれからも頑張って頂きたいと思いました。実り多い評議会でしたが、評議会終了後、何年振りかで他クラブの方と一緒にした打ち上げは、ワイズの楽しさがしみじみと感じられるものでした。八王子クラブから花輪会長、久保田さん、小口さん、並木真さん、長谷川が参加いたしました。

あずさ部第 3 回「残雪のアルプス評議会」集合写真

卓話「バングラディシュの今とこれから」(3 クラブ合同例会)

小口多津子

4月19日、じつは家から10分ほどの会場でした、多摩地区3クラブ(町田スマイリング、町田コスモス、多摩みなみ)合同例会がありました。今回のホストクラブは、町田スマイリングクラブでした。

卓話者は東京 YMCA スタッフの池田麻梨子さん。

2 月 19 日から 26 日まで YMCA スタッフ 5 名でバングラディシュ YMCA を 10 年ぶりに訪問された時のお話でした。10 年前まで交流があったのですが、現地ダッカの日本人レストランが襲撃される大きな事件以後、現地入りの許可が下りなかったとのことで、ようやく交流が再開されたとのことでした。

映像を見ながら、東京 YMCA が支援している 2 つの学校(NFPE)の様子、10 年間の空白の流れなどを知ったそうです。気候変動の為に、洪水が絶え間なく、唯一の交通など流通の中心は、良い河川の地域に繁栄している偏りなど。半面その 10 年間にはバングラディシュの GDP も上がって、何と識字率が60～75%にまで上がっていたこと。都市ダッカは発展しているが、停電や道路整備が悪くて、車の渋滞もひどかったが、一番大変なゴミ処理問題では、日本の JICA が協力にあたっていて、解決へと進められている。訪れた学校では子供達は、英語をよく話すが、シャイな子供が多いとか、どの子も温かい家庭の子供らしく天真爛漫さがあって、家族のコミュニティーの強さを感じたそうです。訪れた 5 人は 3 家族にホームスティをさせて頂いたとのこと、そのお陰で、近所の人たちとの交流も出来て一般家庭に接することが出来たとのことでした。地域の力で学校を作って、地域の為に何かしたい、という人たちの姿に接したとのことでした。ただ、子供達に質問してみたら、日本の YMCA は良くしっているが、日本という国はあまり知らない、という答えが多かったそうで、どうも支援している YMCA の荷物に付いている名前やロゴマークへの認識の方が強かったということでした。

この日は多摩地区 3 クラブ合同例会の良さも発見でした。勿論、卓話を多くの人が聞くことと同時に、3クラブワイズメンには多方面、多くの地域で活躍されてきた知識人が多くおられて、感想を聞いているだけで、話の中身が豊になり会話が広がり、バングラディシュだけでなく、隣のインド、ミャンマーへと話が膨らみ、例会の醍醐味を味わいました。

４月例会卓話
「JCBL の現状と今後の展望について」

中央大学ひつじぐも３年・　　髙木　義仁

感想文

この度は、４月８日（土）に開催された４月例会において、JCBL の監事である山口誠史さんから「JCBL の現状と今後の展望について」の貴重なお話を聞くことができました。山口さんは、JCBL が行っている活動や、特にミャンマーでのサバイバー支援について詳しく説明してくださいました。このような貴重な機会に参加できたことを大変嬉しく思います。

この話を通して日本がいかに平和であるかということを改めて実感しました。私たちの周りには、軍の圧政や非人道的な兵器は存在しません。しかしこのようなことは当たり前ではなく、世界的には、オタワ条約の締結拒否国が多いことや、地雷による被害者への支援が追いついていないこと、非人道的な新しい兵器が刻々と作られていることなど、多くの問題をまだまだ抱えています。

しかし、私たち若い人々は、自分たちから情報を取りに行かない限り、このような話題に触れることはそう多くありません。平和な世の中に甘えて今まで育ってきました。

それに対して、不服従運動に参加した医療従事者や学生で構成されたDKKの人たちは、若い世代の知識や技術を駆使し、政府の検閲などを掻い潜り、SNS を駆使して支援を呼びかけ活躍していることに感銘を受けました。自分たちと同じ年代の人たちが、危険を顧みずに行動している姿に、私たちも見習うべき点が多くあります。私たちが今後も、社会に目を向け、自分たちに何ができるかを考えながら、行動していくことが大切であると感じました。

彼らの「人々を無償で支援する熱意」が功を奏すことを心から願っております。

今回の例会は、自分たちが当たり前に享受しているものを改めて違う側面から考えさせる貴重な機会を下さって感謝しています。このような場を提供してくださった東京八王子ワイズメンの方々に改めてお礼を申し上げたいと思います。

五島列島の旅と沈黙

久保田貞視

4月24日、S 交通社の「遥かなる五島列島７島周遊と４つの世界遺産構成資産めぐり４日間」のツアーで４日間の旅に出た。長崎までは飛行機で、長崎よりは船での島周遊でした。最初の二日間は雨で、後半二日間は晴れ。目的は観光だけでなく、かって、遠藤周作の「沈黙」を読み、映画を見て、五島での潜伏キリスタンの歩みと現状を知りたかったことと島での生活に関心があったことです。

徳川家康は 1614 年に禁教令を出し、当初は宣教師の取り締まりから信者にも広げ、寺請制度を徹底し、江戸時代を通じて厳しい弾圧を続けた。その為、キリシタンは陸の孤島や外海に移住し、表向きは寺の檀家や神社の氏子になり、自分たちの秘密組織で信仰する「潜伏キリスタン」となった。1797 年に五島藩は大村藩に荒地開墾のために農民の移住を依頼し、約3千人が五島に入植した。彼らは差別され、生活は苦しかったが、キリシタンの取り締まりは緩やかで信仰を続けられた。

明治維新になっても明治政府はキリスト教を禁教とし、多くの信徒が捕らえられ、弾圧を強め浦上では浦上四番崩れと言われる拷問・苦役により多くの死者を出した。五島でも多くのキリシタンが牢屋に入れられ拷問を受け多数の死者も出た。（五島崩れ）

この事実を長崎の外国領事が知り、明治政府に抗議し、拷問は中止となり多くは放免された。明治6年(1873 年)禁教令は廃止されたが、その後も一部の地域では拷問を受け、村を追い出された信者もいた。

潜伏キリシタンの多くは宗教の自由を得たのちカトリック教徒になったが、カトリック教徒にならず、潜伏時代の信仰形態を維持し続けた隠れキリシタンの集落が存在した。

禁教令廃止後、カトリック教徒に転向した信者はそれぞれの土地で信者が団結して教会(天主堂)を建設した。現在、下五島地区（五島市）に20教会、上五島地区（新上五島町）に29教会があり、こじんまりした美しい教会が多い。人口対比で信者の比率は下五島で 10%、上五島では 13~14%と言われ、日本全国ではキリスト教信者の比率 1%程度と言われているのに比較して非常に高い。

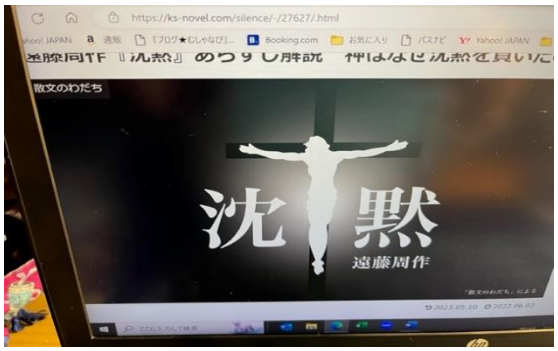
今回訪れたカトリック教会は、五島市にある井持浦教会ルルド（聖母マリアとルルドの泉の鑑賞）、世界文化遺産

に登録されている久賀島の集落と旧五輪教会(1881 年建立した浜脇教会を移設、現在はその隣に五輪教会が建てられており信者数は2家族4人)、奈留島江上集落と江上天主堂(1918 年建立、信者は一人で奈留教会の神父が兼任)、新上五島市の頭ヶ島集落と頭ヶ島天主堂(1919 年島の砂岩を用いて建立、信者数 13 人)に上五島地区の青砂ヶ浦天主堂 1910 年建立、国指定重要文化財、宮大工の鉄川與助の建立)そして、長崎港に戻っての大浦天主堂でした。その他に、福江港から海上タクシーで、五輪港、江上港上陸の後、船上から見学したキリシタン洞窟(明治初期、キリシタン弾圧の迫害を逃れるために4家族、8名が船でしか行けない険しい断崖の洞窟に身を隠したところ。焚火の煙が漁師に見つかり水攻めの厳しい拷問を受けた。)

この他にも五島市の空海・最澄にゆかりのある遣唐使ふるさと館、北五島の矢堅目の塩釜見学、鯨賓館ミュージアム、長崎からバスで佐賀県に入り訪れた日本三大稲荷の祐徳稲荷神社では奥の院まで 300mの山道を登って参拝した。

尚、五島市及び新上五島町のバスガイドの説明では産業が農業・漁業の兼業が多く仕事がないため高校の卒業生の8割は島を出ている。一方、二人のバスガイドは一旦大学や就職で島を出た後、島に戻ってきた由。2018 年に「長崎と天草地方の潜伏キリスタン関連資産」として世界文化資産に登録され、下・上五島地区は観光にも力を入れている。島の小・中学校では少子化により生徒数が減少しているため、他地域から島の学校に留学する「しま留学生」を募集しており、当局はホストファミリーに補助金を出しているとのこと。

神が存在するのならば、なぜ救わない。禁教令下の長崎で棄教を迫られ、拷問に耐え、殉教する信徒の苦悩に対して、宗教とは何か、祈りとは何か、救いとは何か、という信仰の根源的な主題を問う。神の存在と信仰、背教者の心理、キリストを絶対の神とするカトリックと八百神の自然に霊が宿るとする日本人。キリスト教作家である遠藤周作『沈黙』を紐解こう！ **(山本)**



今月の聖句に寄せて（2023 年 5 月）

母一人、息子一人の家庭で、その一人息子が亡くなりました。息子は母親の生きがいであったでしょう。その息子が亡くなったのです。嘆き悲しみ、涙にくれる母親をみたイエスは、深く心を動かされ、声を掛けます。「もう泣かなくともよい」と。イエスは息子を生き返らせ、母親の胸にお返しになりました。この母親にとって"息子のいのち"はなくてはならないものであることを知るイエスだからこその行為です。

先日、6 年前に召天した母親が読んでいた本の中から、渡辺和子先生の「心に愛がなければーほんとうの悲しみを知る人にー」（PHP 研究所）を見つけました。手にとってみると、２か所に栞のようにものがはさんでありました。一か所はティッシュペーパー、もう一か所はなぜか血のにじんだ脱脂綿で、「デウスのごたいせつ」という見出しの箇所でした。「人間にとって"なくてならないもの"は何なのだろう」との書き出しです。そして、「一人の人に生き甲斐を与えるほど、大きな愛はなく、人から生き甲斐を奪うほど残酷な行為はない、と知るべきであろう」と結んでいます。私の母がなぜこの個所に血のにじんだ脱脂綿を挟んでいたのか、今はもう知ることができないことを悲しく思う今年の母の日ではありました。

並木　信

わくわくビレッジ便

担当主事　菅野牧夫

わくわくビレッジの周りの木々は葉っぱが青々と茂りはじめ、気持ちのいい季節になってきました。新年度が始まって 1 ヶ月が過ぎました。ゴールデンウィークはお客様がたくさんいらっしゃって、子どもたちの声がいろいろなところで聞こえるようになってきました。新年度は始まったばかりですが、一年間でどれだけたくさんの子どもたちが楽しい体験をしていくか、楽しみにしています。

コロナウイルス感染症の 5 類感染症への移行に合わせて、わくわくビレッジも、少しづつ通常の状況に戻し始めていきます。今までお客様が集まらないようにレイアウトを変えていたところを戻したり、アクリル板の運用を変えて行ったり、お客様がいろいろなところでコミュニケーションができるようにしていきます。日常に戻っていく事がうれしく思います。

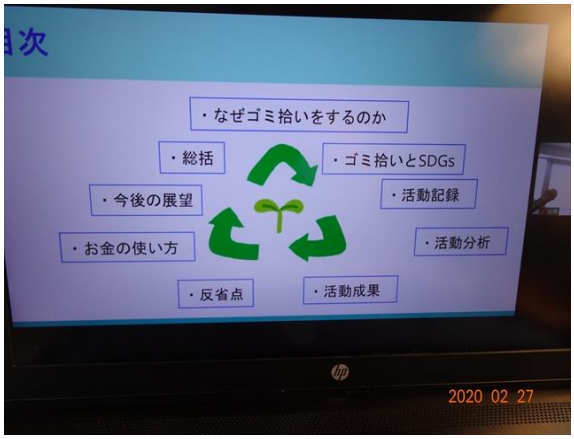
まだまだ戻りきっていないお客様に少しでもわくわくビレッジを知ってもらうために、2020 年の 11 月に Instagram を開始しましたが、つづけて今年の 4 月から Twitter の運用も開始しました。わくわくビレッジの情報を発信し、拡散していく事によって認知度を上げることを目指しています。私も SNS は、とんと疎くてよくわからないのですが、わくわくビレッジ Twitter のリツイートボタンを押してもらうとお友達に広がっていくようです。もし皆様も Twitter のアカウントをお持ちでしたら、「高尾のたぬきち」または@TWV_TANUKICHI で検索、フォローボタン、リツイートボタンをポチッと押していただけると嬉しいです。

学校団体の利用が戻りつつある中で、子どもたちのお土産用にわくわくビレッジオリジナルグッズの拡大を始めました。今まであった缶バッジ、シールに加えて、T シャツやキーホルダー、ポーチなどを作成しました。これからも新たなグッズを販売する予定です。わくわくビレッジにお越しの際に、売店を覗いてみてください。

ひつじぐも便

文学部 2 年の田中胡暖

4 月 23 日に多摩センター駅周辺で、入会希望者の体験を兼ねたゴミ拾い活動を行いました。参加者の中で、既に入会しているひつじぐものメンバーは 10 人ほどで、体験に来てくれた人の占める割合の方が多く、なんと 24 人も来てくれました！私たち 10 人が 2 人ぐらいずつに分かれて合計 5 チーム作り、それぞれ違う方向へ行き、1 時間ほどゴミ拾いを行いました。今日もやはりゴミの中でタバコの吸い殻が圧倒的に多く、私のチームでは 30 本近くものタバコを拾いました。燃えるゴミ、燃えないゴミ、カン・ビン・ペットボトルの3つの担当を作り、役割をしっかり分担しながら、みんなで協力し、楽しくゴミ拾いをすることができました。今回驚いたのは、空きカンやペットボトルといった、目につきやすい大きめのゴミがいつもよりも多く見受けられたことです。逆に、思わぬ嬉しい出来事もありました。それは、ゴミ拾いをしている時に、地域の方から「お疲れ様です！」や「ありがとう！」と言ったあたたかい言葉をかけていただけたことです。私自身ひつじぐもに所属してから、様々な場所で行われてきたゴミ拾い活動に参加してきましたが、こうして直接感謝の気持ちを伝えてもらったことは初めての体験でした。体験に来てくれた人の中にも、「ゴミ拾いって良いですね！」と言ってくれた人や、これを機に入会を決めてくれた人もいて、最高の新歓イベント、そしてゴミ拾い活動になりました。私自身も改めてゴミ拾い活動の必要性を実感しましたし、私たちがゴミ拾いをする姿を見て、1 人でもポイ捨てをする人が減ればいいなと思いました。こういったサークル活動を通して少しでも地域のためになっていれば嬉しいなと思うので、これからもゴミ拾い活動を続けていきたいと感じました。



東京ＹＭＣＡ 近況報告 ５月

◆ キャンプ等で積極的に活動している青年たちをＹＭＣＡのユースボランティアとして認証する制度「日本ＹＭＣＡユースボランティア認証」として、東京ＹＭＣＡからも 29 人が認証され、認証カード、ボランティア手帳等が贈られた。

◆ 4 月 1 日、「職員就業礼拝」をオンライン（ZOOM）で開催し、職員約 100 名が出席した。古賀博牧師（日本基督教団早稲田教会／公益財団法人東京ＹＭＣＡ評議員会会長）に説教をいただいた。礼拝に続き「全体職員会」では、3 法人の代表者から挨拶と新年度運営方針の説明があり、新入職員代表者からも抱負が語られた。

◆ 2023 年度より品川区北品川（御殿山トラストタワー内）に「東京ＹＭＣＡウエルネスガーデン品川御殿山」が新規オープンした。プレオープンとして、3 月 22 日からスプリングプログラム（春休みの短期水泳教室）を開始、4 月からは 200 名を超えるメンバーを迎え、幼児から高校生を対象とした水泳クラスが本格的に始動した。

◆ 4 月 13 日に「第 32 回チャリティーゴルフ大会」がＰＧＭ総成ゴルフクラブで開催され、24 グループ、87 名が参加した。益金約 400,000 円は、障がい児プログラム支援、フレンドシップファンド、不登校の子ども支援、国際協力募金に用いる。

◆ 4 月 15 日に、東日本地区ＹＭＣＡ役員会主催「特別公開講演会」が東京ＹＭＣＡ主管でオンラインで開催され、全国 18 のＹＭＣＡから 102 人が参加した。寺島実郎氏（一般財団法人日本総合研究所会長・多摩大学学長）より「世界の構造変化と日本の針路－21 世紀日本人の心の基軸」と題して講演をいただいた後、グループディスカッションで感想が共有された。

◆ 今後の主な行事日程
- 「第 20 回会員大会」5 月 27 日　会場：山手センター

以上

（4月第1例会報告）

日時:4月8日(土)18:00~17:40
会場:北野事務所大会議室
出席者:長谷川、菅野、佐藤、小口、花輪、望月、並木真、久保田メン・メネット、並木信、山本、大久保
(ゲスト:JCBL 監事　山口誠史さん、酢屋義元さん、ひつじぐも・大山希さん、高木善仁君、計　16 名

1. 卓話:「JCBL の現状と今後の取り組み」
　卓話者:山口誠史氏(JCBL 監事)

・対人地雷とは、被害者の8割が市民、犠牲者の半数・が子供、ICBL は 1992 年 10 月発足、オタワ条約は 1997 年 12 月調印、日本も参加。1997 年ノーベル平和賞受賞、現在の締結国 164 国、オタワ条約締結拒否国(米、中、インド、ロシア、ウクライナ等)
JCBL　1997年発足。
・クラスター爆弾禁止条約(オスロ条約)2008.5 成立、
・ロシアのウクライナ侵略においてもロシアはクラスター爆弾、対人地雷の使用が報じられており、如何に対応するか。
・ほかに、JCBL の取り巻く課題として、ミャンマー地雷犠牲者への義足の支給でパートナーの問題、種々課題に対するオンラインセミナーの開催、社会復帰のための職業訓練など。

2. 東京 YMCA 報告―3月22日御殿山のプールが完成。スイミングプールが完成し、プールでの水　泳指導を行う。高尾わくわくビレッジー１人退職、東京 YMCA より2人出向。宿泊状況は 70%と上昇している、
3. 長谷川メンより5月27日(土)の草刈と BBQ について5月8日までに出欠の報告。
4. 小口あずさ部ユース事業主査から第9回オープンフォーラムの案内(5月20日)
5. スマイル　12,000 円を JCBL に寄付。
6. Happy Birthday　久保田貞視ワイズ

(4 月第2例会報告)

1. 日時:4月 22 日(土)　18:00~20:00
2. 会場:北野事務所 2 階和室
3. 出席者(敬称略):長谷川、小口、佐藤、菅野、花輪、並木真、久保田、並木信、茂木　計 9 名
4. 報告・検討事項

(1)第3回あずさ部評議会(5月 13 日　松本)
　出席者:花輪会長、長谷川、小口、並木真、久保田
(2)5月第1例会(5月　27　日　高尾の森わくわくビレッジ)ひつじぐも新入生歓迎会(C　班担当)申し込み5月8日までに。(並木信、長谷川)
9:45 わくわくビレッジロビーに集合。
10:00 自己紹介、打ち合わせ(教室予約要)
10:30 ~草刈、11:30~13:00　BBQ、その後事務会。

・料理　肉・魚セット人数分、焼きそば　人数の半分
・グループ分け1グループ5人
・会費:ひつじぐも 500 円、メンバー1,000 円、
　　ビジター・ゲスト　2,000 円
・ボランティア保険―市ボランテアセンターに依頼
・国際の地域奉仕事業・W4W 運動の協力とする。
(3)東日本区大会(6 月 3~4 日甲府)
　参加者:花輪会長、長谷川、小口、並木真、菅野(クラブより 8000 円手交)、久保田メン・メネット、
(4)6月例会の卓話者:東京 YMCA　松本数実さん
「バングラデッシュ YMCA を訪問して～今後のパートナーシップに向けて～」
(5)ベテル教会バザー(4月29日)　並木信
　バザーの商品は協力頂いて集められたが買ってくれる人を呼び込み中。売上代金は日本 YMCA 同盟のウクライナ支援及びフードバンク笑顔に寄付。
(6)オープンフォーラム Y(小口)　5月 20 日
　ひつじぐもより3人参加・報告、参加要請
(7)他クラブの例会・活動
・神田川船の会 6 月 10 日
・熱海クラブ創立 60 周年記念例会 11 月26日
・東京多摩みなみクラブープランター野菜講座
(8)次期クラブ役員・委員長(協議結果)並木真
・会長　並木真、副会長　久保田、書記　小口、
　会計　長谷川、ブリテン　山本、Y サービス　茂木、
　CS　花輪、EMC　並木信、交流　久保田、
　ユース　佐藤(副　久保田)ファンド　大久保
　担当主事　菅野
(9)今後の例会会場―北野事務所は食事が出来ないので他の会場。案として子安市民センター(6 月例会)

5月のお誕生の皆さん

おめでとうございます

望月　隆珉　さん　5月7日

4月のお誕生お祝いスナップ　久保田さん

オープンフォーラムY

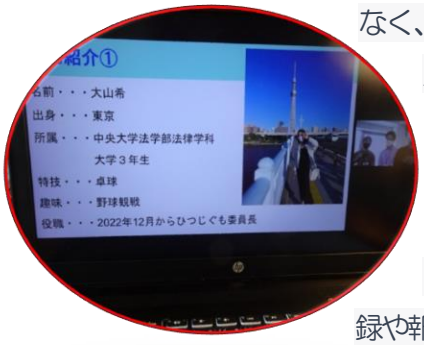
5月20日(土)午前10時～午後17時

開会挨拶：山田公平さん

私はYSF（Youth Support Foundation）のメンバーで、来年度から東日本区の理事長代表のような形で関わる予定です。私は今日の会議で、これまで進めてきたプロジェクトであるユースアクションについて話し合い、今後の方向性や参加者の意見について報告する予定です。私はこれを学びの機会と捉え、来年度からの一歩を進めるために皆さんと一緒に考えることを期待しています。

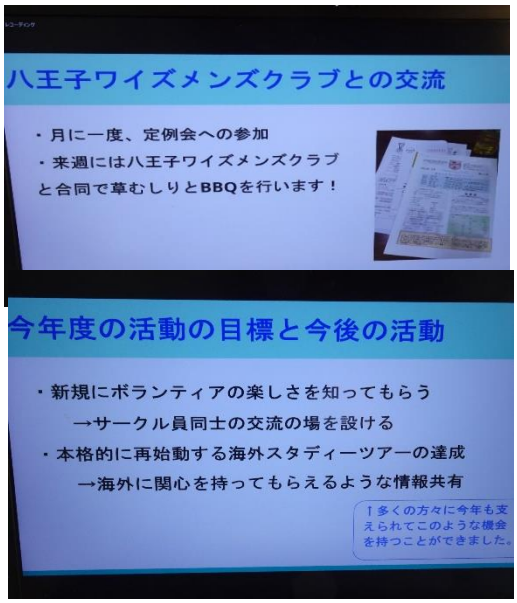
中央大学ひつじぐも　報告：大山　希さん

「ゴミ拾い活動の目的は、きれいな地域を作るだけでなく、参加者や周囲の人々の意識を変える良い活動」と言えます。この活動は SDGs に関連し、活動記録や報告、分析、成果も含まれます。最後には展望や総括を行い、夏休みには大学陸地の方との交流もあります。



ゴミ拾いでの SDGs 貢献には以下の３つがあります。まず、11 番目の目標である「住み続けられる街づくり」は、ゴミ処理に注意を払い、都市の環境への影響と負担を減らすことを目指しています。ゴミ拾い活動は周囲の意識を変え、ゴミ処理への注意を促す一助となると考えられます。次に、12 番目の目標である「責任ある消費と生産」は、生産者と消費者が地球環境と人々の健康を守るために責任ある行動をすることを促しています。消費者は自分の使用済み物を適切

に分別処理する責任を持つと考えられます。最後に、14 番目の目標である「海の豊かさを守る」は、海洋資源を保護し、海の汚染を減らすために取り組むことを目指しています。海岸でのゴミ拾い活動は海洋汚染の軽減に寄与する手段の一つです。これらの３つがゴミ拾いでの SDGs 貢献の主な要点です。私は６月に行われるゴミ拾い甲子園に出場する予定です。日程は６月 11 日です。入賞を目指して頑張って活動しようと考えています。また、ゴミ拾いの活動は茗荷谷キャンパスという都心のキャンパスを利用しており、都心でのゴミ拾いも活発に行える状態になってきたと思います。JR 中央線沿いのゴミ拾い企画も成功しましたので、他の場所でもゴミの企画を検討したいと思っています。ゴミを捨てる人には罪悪感があるように感じましたし、ゴミ捨てが環境を汚していると感じますが、ゴミ拾いをしている中で地域の方から感謝の言葉をいただいたり、地元の方からジュースをもらったりして楽しい経験もありました。ゴミ問題には関心の高い人もいれば、関心の低い人もいる印象です。ゴミ拾いの目的は場所をきれいにするだけでなく、参加者や周囲の人々の意識を変えることにも繋がると考えています。これにより、SDGs に貢献することができると思います。以上が私のゴミ拾いに関するまとめです。クリーンな街づくりに取り組むことを目標としてます。



八王子ワイズを代表して　花輪会長

私は八王子クラブの花輪と申します。まずはじめに、大山さんに感謝の意を述べたいと思います。八王子クラブは地元に YMCA がないため、中大の YMCA との関係が非常に重要で貴重存在です。YMCA に集まる若者たちを支援することは、YS の活動の根本的な目的の一つだと考えています。しかし、最近はコロナ禍や会員の高齢化などの課題に直面しており、活動が低調になっていました。そんな中、大山さんの積極的な働きにより、私たち YS マンとの交流が活発化し、八王子ワイズメンズクラブも活性化し、夢が広がってきました。そのため、普通の支援ではなく、中央大学の YMCA から助けを受けているような感情を持っています。そのような感謝の気持ちから、本来のワイズメンズクラブに向けて、私たちにもっと支援していただけると嬉しいです。参考にしていただければ幸いです。

山田公平さんの締めの言葉

今年は 10 の活動がありました。活動内容はゴミ拾いで、大学や山梨で行いました。

学生たちがゴミ拾いを通じて社会への貢献を感じ、見えない場所にゴミを捨てる人たちの問題について話し合いました。次の一歩として、学んだことを社会に発信し、さらなる活動を展開していきたいと考えています。これにより、５年後や10年後にも意味のある成果が得られると期待しています。若者たちが自分のためではなく、社会のために行動することが、成長となる栄養素であると感じました。私は YS の YMCA と協力して、この活動を中心に進めていきたいと思っています。

学生たちはゴミ拾いの活動を通じて社会貢献を実践し、問題を話し合いました。学んだことを発信し、将来にも意味のある成果を期待しています。若者の行動が成長につながることを感じ、YS の YMCA との協力を強く希望しています。

津田敬久さんを忍んで

津田敬久さんのこと

東京西クラブ　吉田明弘

高校3年生の時、教会帰りに、「家に遊びにきませんか」と声をかけられた。関西弁の夫人だった。家には3世代同居、子どもが4人いて、みな教会学校の生徒だった。一番上が津田敬久君で中学2年生、妹の3人はみな小学生だった。津田家とはそれ以来のお付き合いとなった。女性5人は明るく賑やかで、津田君は、言われるまま。高校生になっても大人しく、端正で理髪店に週に1度行くとかで髪を撫でつけていた。大学、サラリーマン時代に変貌したが、ここでは書けない。

今回の逝去は、全くの驚きだった。以下、ほとんどは妹さんから聴いた話である。

4月30日、妹さんから電話で「アニキが胸が痛いと言って救急搬送された、心筋梗塞で大変危険な状態だ」と。三日間の昏睡状態から覚めた時には、駆け付けた家族一人一人と会話が出来た。しかし医者からは、「何が起こってもおかしくない状況です。後は本人の生きる力次第です」と言われたそうです。「敬ちゃんは、意外にしぶといよ。誰もが反対したことでも、最後は自分の意思を通して、やり遂げてきたからね」と励ますしかなかった。

これを妹たちに話したら「なんてことを言うんだ。」と、憤慨したそうだ。

5月11日、家族が集まっているところに病院から「容体が急変した」との連絡が入り、全員で駆けつけたら、本人とは会話が出来た。孫には「チェスしよう、ありがとう」といった。「やっぱりアニキはしぶとかったね」と妹さんたちの感想だったとのこと。

次の日、午後家族と牧師も一緒に面会が出来た。眼を開け見まわし聖餐を受け表情が明るくなった。そしてはっきりと大きな声で“ありがとう”と。これが本当に最後の言葉だった。5月12日16時25分 81歳の生涯を終え神のみ元に旅立った。5月16日葬送式が、彼が愛し、彼を愛した日本基督教団和泉教会で行われた。もちろん悲しみがあるが、皆がそれを受容しているかのような穏やかなお別れだった。彼は、志賀裕子さんと結婚し、クリスチャンホームを築かれた。お子さん方も同様である。津田さんが最後の力を振り絞って伝えたかったのは何か。彼のテーマは『愛』だった。

津田さんの思い出

長谷川あや子

津田さんは仮面の収集と研究が趣味で、東南アジアを始めアフリカなど沢山の仮面を集めていらっしゃいました。2004年の例会では仮面舞踏会風にそれぞれ好きな仮面を拝借し被って、卓話「世界の仮面」をお聞きしました。又、以前はクラブの新年例会はお座敷を借りて行っていましたが、お楽しみはオークション。津田さんが仮面をつけて大活躍でした。私は入会したばかりでしたがお手伝いをさせて頂きました。楽しい思い出です。

津田敬久君の告別式に参列して

久保田貞視

当クラブ設立の発起人である三羽烏の一人、津田敬久君が5月12日に天に召されました。16日、永福町の和泉教会で葬送式が執り行われ、小口さんと出席しました。同教会の牧師は津田君のこれまでの人生を丁寧に報告され、津田君の愛唱聖句、ヨハネによる福音書の一章を読み上げられ、「愛」について解説されました。棺には彼の趣味のお面、蒐集した古切手が入れられました。お花料ご遠慮にもかかわらず、帰りに彼の好物のマミングをいただきました。

1994年9月、東京八王子クラブ設立は、東京サンライズクラブと東京多摩クラブがスポンサーとなりましたが、実際には津田君、今原氏、奈良氏が主となって設立され、来年30年を迎えます。津田君はまた、クラブとしてDBCを探していた時に、大阪にYMCA英語学校の卒業生で設立した大阪セントラルクラブはどうかと話を持ってきて検討し、1999年度にDBCを締結し、毎年楽しい合同例会を開催してきました。最初の合同例会は大阪緑地公園で開催しましたが、お土産として彼の提案でマミングを持って行ったのが思い出されます。

また、彼は2009年度で退会しましたが、その後、毎年、誕生月の10月には沢山の古切手を持参され、当クラブは東日本区大会では古切手収集では常にトップクラスでした。ワイズの昔の仲間として天国に召されたのは本当に残念ですが、安らかに過ごされることを祈っております。